

第6回移動等円滑化評価会議沖縄分科会 議事録

日時：令和6年10月10日（木） 14:00～16:00

場所：沖縄総合事務局 5F 海技試験室（オンライン併用）

< 議 事 >

- (1) 沖縄における移動等円滑化の進捗状況について
- (2) 沖縄総合事務局の取組みについて
- (3) 国土交通省における建築物バリアフリー化の取組みについて
- (4) 合理的配慮の啓発について
- (5) 沖縄市における観光バリアフリーの取組
- (6) 質疑応答

< 議事要旨 >

以下のような提案、要望があげられた。

- ・障がいの種類に関係なく会議等に参加できる配慮
- ・国際仕様のバリアフリーマップの作成
- ・リフト付き観光バス車両の普及
- ・UD タクシードライバーの人材確保および効果的な研修
- ・観光施設への補助犬トイレの設置
- ・道路整備における歩車道段差解消の促進
- ・民間企業への合理的配慮の周知
- ・障がい者の投票に対する自治体の対応の周知
- ・障がい者への情報等の伝え方の合理的配慮
- ・空港ターミナル連絡通路のスロープ部分の「動く歩道」の必要性
- ・空港ターミナルから連絡通路へ、円滑に移動ができる案内表示

＜ 出 席 者 ＞

委員

	所 属	職 名	氏 名	参加	代理出席
1	NPO法人エンパワメント沖縄	理事長	高嶺 豊	現地	
2	NPO法人バリアフリーネットワーク会議	代表者	親川 修	現地	
3	NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会	理事	仲根 建作	現地	
4	公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会	理事長	田中 寛	現地	
5	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会	地域福祉課長	仲程 大輔	欠席	
6	公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会	会長	山田 圭吾	オンライン	
7	社会福祉法人沖縄県身体障害者福祉協会	会長	山城 充正	オンライン	
8	社会福祉法人沖縄県視覚障害者福祉協会	会長	知花 光英	オンライン	
9	一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会	会長	城間 枝利子	現地	
10	公益財団法人沖縄県老人クラブ連合会	常務理事兼事務局長	新城 智美	オンライン	
11	沖縄県発達障害者支援センター	地域療育課長	大城 貴子	オンライン	
12	沖縄都市モノレール株式会社	技術部長	長浜 正勝	現地	
13	一般社団法人沖縄県バス協会	事務局長	高江洲 誠	オンライン	
14	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長	津波古 修	現地	
15	一般社団法人沖縄旅客船協会	専務理事	平良 公孝	現地	
16	一般社団法人沖縄県レンタカー協会	専務理事	與古田 思好	欠席	
17	一般社団法人沖縄県ホテル協会	会長	平良 朝敬	現地	嘉手苺 孝夫
18	那覇空港ビルディング株式会社	施設部施設課長	大城 英二	オンライン	
19	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	国内事業部長	金城 修	オンライン	
20	沖縄県企画部	交通政策課長	平良 秀春	オンライン	平良 友嗣
21	沖縄県土木建築部	施設建築課長	仲本 利江	現地	比嘉 一哉
22	沖縄県子ども生活福祉部	障害福祉課長	大湾 朝貴	欠席	
23	沖縄県文化観光スポーツ部	観光振興課長	山川 優	オンライン	照屋 亮
24	沖縄県教育庁	生涯学習振興課長	米須 薫子	オンライン	
25	沖縄県警察本部交通部	交通規制課交通管制官	上別府 賢二	現地	高嶺 幸治
26	那覇市都市みらい部	都市計画課長	佐久川 泰尚	オンライン	
27	那覇市福祉部	福祉政策課長	佐久川 正守	現地	
28	那覇市子どもみらい部	こども教育保育課長	當間 一也	オンライン	

事務局

	内閣府沖縄総合事務局運輸部	運輸部長	星 明彦	欠席	
	内閣府沖縄総合事務局開発建設部	建設行政課長	城 奈穂美	現地	濱道 拓郎
	内閣府沖縄総合事務局運輸部	企画室長	亀谷 匡哉	現地	
	内閣府沖縄総合事務局開発建設部	建設産業・地方整備課	久場 兼治	現地	

＜ 議 事 録 ＞

1. 議事(1)、(2)、(3)について

番号	発言者	内容
1-1	聴覚障害者協会 城間委員	資料2のP7について、以前首里城から障がい者の観光に関する会議への参加依頼の電話があり、私と副会長の比嘉さんが会議に参加すると回答し、楽しみにしていた。その後、手話通訳者などの予算が付けられなかったのか、聴覚障害者情報センターに連絡はなく、結局参加ができなかった。首里城の歴史や観光を学び、安心して観光できるための大切な会議だったので、比嘉さんも私も、会議に参加できなかったことをとても残念に思った。車いす利用者向けには配慮があり参加できることが多く、私たち聴覚障がい者も色々と参加し意見を言える機会が多くあると良い。通訳者派遣の予算があれば、ぜひ、聴覚障害者情報センターまで相談してほしい。
1-2	事務局 仲里専門職	首里城公園出張所で企画した意見交換会であるため、各団体へどのような対応をとったのか担当課へ確認したい。
1-3	事務局 久場課長	昨年、こういった事情があったことを把握しておらず、失礼した。調整が必要になるが、よろしければ首里城をご覧になりご意見をいただくとありがたい。
1-4	ホテル協会 嘉手苅委員代理	資料1-1に色々な数の比較表があるが、地域別にまとめて出ているので、他府県に比べて沖縄県の状況はどれぐらいの位置にあるのか、もう少し具体的に沖縄での数が分かると良いと思った。 資料2のP15に、沖縄記念公園のバリアフリーのマップがあるが、国際仕様になるのか。インバウンドのお客も来られるが、図柄をみて海外でも共通のマップなのか、あるいは国内向けのマップなのか教えていただきたい。
1-5	事務局 浜道課長代理	マップについて現時点では把握しておらず、確認した後ほどご連絡したい。
1-6	脊髄損傷者協会 仲根委員	沖縄県でもバリアフリーの取組が、毎年、高くなってきており、本当に感謝している。特に客船などは離島県の沖縄なので、数値が上がってきているのをとても嬉しく思う。 資料1-1のP29について、リフト付きバスの車両数が4台とあるが、これは観光バスでの台数なのか。コロナ渦で観光バスのリフト付き車両が減ったと聞いていたので台数を確認したい。
1-7	事務局 亀谷室長	観光バスのリフト付き車両については、詳細な数は把握しておらず、後ほど確認して皆様へお知らせさせていただく。
1-8	脊髄損傷者協会 仲根委員	資料2のユニバーサルドライバー研修について、沖縄総合事務局で毎年取り組んでいただいて大変感謝しているが、いまだに、タクシー会社に予約の電話をしてUDタクシーの依頼をすると、研修を受けたドライバーを探せないで、申し訳ないが予約の対

番号	発言者	内容
		<p>応ができないと言われることがままある。沖縄だけではなく全国でもそうだが、特に東京はそういう傾向がある。道路で手をあげてタクシーが止まらなかった場合には、乗車拒否になり大きな問題になるが、予約で依頼したときに対応できないのは乗車拒否になるのかお聞きしたい。</p> <p>ドライバー研修については、県内離島も含めて年1回されているが、新たに、会社ごとに講師を派遣する事業を行ってもらえないか。そうすることによってドライバー研修の受講者数を増やしていき、沖縄総合事務局の数値目標として、ドライバー研修の受講者数を毎年数値化し、目標設定していくことはできないか。ドライバー研修はとても重要なことなので、ぜひご協力いただきたいと思う。</p> <p>沖縄総合事務局の道路の整備について、国だけではなく市町村もそうであるが、私たち車いす利用者にとって、横断歩道から歩道に上がるときの歩車道の段差はすごく大変である。段差解消のために沖縄コンクリート二次製品共同組合が開発した「ゆいバーサル縁石」があり、先だって沖縄総合事務局にて、浦添市の国道沿いで整備をしていただいたり、那覇市の若狭地区で整備をしていただいたりしている。沖縄でも少しずつ広がっているので、バリアフリー化の対応に感謝したい。沖縄県産でもあるので、今後も「ゆいバーサル縁石」を使った歩車道段差解消について促進してほしい。</p>
1-9	タクシー・ハイヤー協会 津波古委員	<p>UDタクシーについては、仲根委員のおっしゃる通りで、先日、宜野湾市の自立生活センター・イルカさんへお伺いして意見交換をさせていただいたところ、事前の予約でなかなか受けしてもらえないという同様のお話をお聞きした。なぜ対応できなかったのか、予約を受けるオペレーターのスキルも含め懸案している。協会内部に教育指導の委員会というセクションがあり、改善に向けて議論を進めている。車両が少ないことや研修を受けた乗務員がまだまだ少ないという実情はあるが、ドア to ドアで個別輸送を担っているタクシー事業は、公共輸送機関としての責務があることを、我々事業者、代表者、運行管理者、乗務員が、それぞれしっかり自覚を持って地域の足として対応したいと考えている。今日、ご意見いただいたことを持ち帰って、しっかり検討していく。</p> <p>私たちがUDタクシードライバー研修を開催させていただいているが、回数や受講する乗務員などが足りず、全体の車の数に対して対応できる乗務員が不足している認識も持っており、会社へ講師を派遣するのは、良いアイデアだと感じた。例えば、万が一の事故やクレームの対応については、私どもの職員がタクシー会社へ出向き、夕方の交代時間を利用して乗務員をいくつかのグループに分けて講習を行っている。そういった形で、積極的に出</p>

番号	発言者	内容
		<p>向いて研修を行うことも今後は必要だと考えている。</p> <p>また今年度は、沖縄本島南中部・北部、宮古・八重山地区でも同様に、UDドライバー研修をさせていただくので、少しでも多くの乗務員を誕生させて対応の改善を図っていく。</p>
1-10	事務局 亀谷室長	<p>タクシーの乗車拒否になるかどうかについては、個別に対応される方の判断によるものと思われるので、こちらでは良し悪しなどの判断はいたしかねる。ただこのような状況が散見される場合には、所管の部署にも確認しながら、我々でも改善策を検討して提案していきたい。</p> <p>UDドライバー研修の数値の目標については、今すぐにやるやらないは申し上げられないが、我々としても、多くの方に受講していただき広く対応していただくことは重要だと考えているので、対外的に公表するしないは別として、多くの方に受講していただく取り組みを仕掛けていく。</p>
1-11	事務局 浜道課長代理	<p>歩車道の段差の解消については、道路関係部署とも共有する。</p>
1-12	BFN 親川委員	<p>那覇空港で障がい者観光客案内所を運営しているが、ひと月に平均2人ほど補助犬を連れた方が来られる。最近は、入店可能という意味の「ほじょ犬マーク」のシールをよく見かけようになってきたが、沖縄県は観光地であり、首里城や美ら海水族館などでも補助犬を連れて来られる方がいると思う。そのような観光地で、補助犬トイレがないのは問題と感じている。那覇市では、市役所に設置されており、新しく作る施設にも補助犬トイレを設置する流れになっている。国の基準で設置するというのではないかもしれないが、首里城などのとても良い観光施設に補助犬トイレがないのは、片手落ちに感じる。</p>
1-13	事務局 久場課長	<p>美ら海水族館、首里城公園の関係部署に、補助犬トイレについての要望があったことを共有する。</p>
1-14	高嶺会長	<p>資料1-1のP28のリフト付きバスの導入の資料について、ノンステップバスは沖縄県でも83.6%と普及してきており、普段の生活では支障が少なくなっている。</p> <p>今年の5月に中南米へ出張し、羽田経由で成田まで行く際の交通機関はリムジンバスか鉄道があり、リムジンバスだと簡単に行けるがバリアフリー対応のリフト付きバスがなく鉄道で行った。帰りは、鉄道だと時間に間に合わないのでリムジンバスに乗ることになったが、バリアフリーに対応したバスではないため、大変な苦勞をして担いでもらいながらバスに乗った。空港などではリフト付きのリムジンバスを100%くらいにして貰えると良いと思う体験だった。アメリカの長距離バスは、100%リフト付きになっている。</p> <p>また石垣へ研修に行った時に車いすの方が2名いたが、以前は</p>

番号	発言者	内容
		リフト付きのバスがあったが、今はなくなっていたので障がい者団体からリフト付きのバンを借りてもらった。リフト付きバスは2.4%なので、もっと普及する必要がある。沖縄のような観光地で、一般人とグループを別に旅行するのは大変不自由なので検討してほしい。

2. 議事(3)、(4)について

番号	発言者	内容
2-1	手をつなぐ育成会 田中委員	<p>心のバリアフリーという観点が知的障がいにはあり、今年の4月から合理的配慮が民間企業にも義務化されたが、言葉自体は知っていても、その内容や特性での合理的配慮が分からない事例があると思う。</p> <p>特性というのはそれぞれの障がいによって異なり、車いすの方はスロープで乗車していただく、高い所に物があって手が届かない方に商品を取って手渡すなど、物理的環境の配慮である。手話通訳も1つのツールになる。</p> <p>知的障がいの疑似体験として、皆さんに「リンゴ」「ボール」の絵を描いてもらうと「リンゴ」はすぐに描け、「ボール」はサッカーボール、バレーボール、バスケットボールなど「ボール」という1つの言葉で色んな受け取り方ではあるが描ける。しかし「ゆっくり」「急ぐ」の絵を描いてもらうと描けなくなる。このように我々が日常で伝わると言うことでも、相手に伝わりにくいものがある。</p> <p>発達や知的障がいのある方に「そんなに急ぐと危ないので、係員の指示に従ってゆっくり乗ってください」と説明すると、たくさんの単語が入っているので理解ができないことがある。「危ないよ」「ゆっくり乗ってください」というような指示が、知的障がいのある方には必要である。</p> <p>伝えただけやってくれなかったとよく聞かすが、それには伝え方、つまり合理的配慮が必要だと思う。皆さんにお願いしたいのは、それぞれの協会や組織の中で、それぞれの障がいを持った方への対応の事例や研修をしていただけたらありがたい。</p>
2-2	聴覚障害者協会 城間委員	<p>田中委員の知的障がいのある方への伝え方については、聴覚障がいにも似ている感じを受けた。聴覚障がい者は幼い頃から聞こえないので、音で言葉を習得できない。その代わりに目で言葉を習得して成長していく。大人になると選挙に行くが誰を選んでいいのか、手話での説明もあるが、色んな党があるので「福祉」の言葉や単語をキーワードに選ぶこともある。「福祉」にもいろいろな種類があるが、若い方は「福祉」という言葉だけで良いと捉え</p>

番号	発言者	内容
		<p>選んでしまう方もいる。新聞などに立候補者の顔写真を載せ、目的や施策が何であるか箇条書きにするなど、誰でも読みやすく理解できるようなものがあり、幼いころから見慣れておけば大人になっても判断がしやすく、一般と対等になれると思う。田中委員の意見にもあった知的障がい者の方への配慮は賛成である。</p>
2-3	<p>脊髄損傷者協会 仲根委員</p>	<p>空港ターミナルからモノレール駅までの連絡通路のスロープ部分について、駐車場棟を過ぎてモノレール駅までスロープになっており、そこに「動く歩道」が設置されているが、老朽化のため約2年間止まったままである。今年の県議会でも予算の必要はないのではと議論され修繕されていない経緯がある。理由は、那覇空港ターミナルから駐車場棟までのスロープに「動く歩道」は設置されていないが何の問題はないので、駐車場棟からモノレール駅までのスロープにも「動く歩道」は必要ないのではという意見が県議会であり、そのことはマスコミなどの報道でも取り上げられていた。</p> <p>それには勘違いがあり、実は車いす利用者は、那覇空港ターミナルから駐車場棟までのスロープは通っていない。1階の到着口から外へ出て、横断歩道を渡って駐車場棟まで行っている。そこからエレベーターで3階まで上がってから「動く歩道」の方へ行くという別のルートを使っている。この実態については、マスコミの報道でも県議会の審議の中にも取り上げられなかった。</p> <p>「動く歩道」は両側に設置されているが、駅に向かう片側だけでも修繕したほうが良いのではないかと、私たちの方から打診し調整している。</p> <p>また、駐車場棟の1階からエレベーターで3階まで上がると連絡通路に繋がるのに、そのルートについてどこにも表示がない。空港ターミナルに、駐車場棟からエレベーターを利用しての円滑な経路があることを掲示してほしい。観光客の方や移動困難な方々が困っていることなので、ぜひ対応をしていただきたい。</p>